

令和3年3月24日

星城大学

学長 赤岡 功 様

星城大学 外部評価委員会

委員 金子 章道(畿央大学 名誉教授)

委員 大橋 靖雄(愛知学院大学 名誉教授)

委員 濱島 正好(星城大学 後援会長)

コロナ禍のため、大学自己点検評価として纏められた「教育研究年報」の送付を受け、各委員において点検を行い、意見・伺い等を大学に届けて、回答をお願いした。回答を基に各委員において再度点検・評価を行い、下記のとおりのもまとめとしました。

### 星城大学外部評価委員会 意見

2019年度末に発生したコロナ禍への多岐に亘る対応の中、点検・評価がこの時期となったことを確認し、各評価委員において点検・評価を行った。

昨年度に引き続き、学長のリーダーシップのもと、様々な取り組みが行われ大学改革が継続されている。特に、入学者増結果について高い評価があった。またこれも昨年度の指摘事項であった教員負担軽減のための委員会見直し意見があったほか、事務局の業務の効率化など改善要望意見もあった。

以下幾つか意見など列記する。

1. 少子化が進展する中、学生獲得は苛烈を極めている。どのような未来が期待できるかコース毎の夢ある進路を、実績をもとに資料を整えPRしてほしい。
2. 留学生確保は欠かせない。留学生受け入れ態勢が整い、期待に応える学生指導ができる意気込みを喧伝してほしい。
3. 中退者課題については、魅力ある学部像を明示し、共通認識として展開してほしい。
4. 留年者は中退予備軍でもある。中退に追い込まないためにも、学修することの意味や楽しさを学生に寄り添う形で教えてほしい。
5. 各学部、委員会、センター等で、中期計画にて年次で目標を定め、達成状況等報告書にまとめられていることに敬意を表します。
6. リハビリテーション学部で科研費申請を強く要請していることは傾聴に値する。研究に対する真摯な姿勢が学部の伝統となるよう、継続・発展させてほしい。
7. 協議会でのメンバーの真摯で真剣な議論を期待する。
8. コロナ禍での最大限の学生への諸対応の努力を高く評価するとともに、大学運営への経済的負担とならないことを祈っています。

以 上